

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2974800043
法人名	増春建設株式会社特
事業所名	グループホーム増春 悠久の里
所在地	奈良県葛城市新在家393-3 (電話) 0745-48-0132

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年3月25日

## 【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 30 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.7 人	

## (2)建物概要

建物構造	木造一部鉄骨造り	
	2階建ての	1～2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有( ) 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 360,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	270 円	昼食	520 円
	夕食	570 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,510 円	

## (4)利用者の概要(12月30日現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	75歳	最高	99歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	気象会東朋香芝病院 山本医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然に恵まれ、高台に立地する当該ホームは、外観は瀟洒な造りで、ホーム内もゆったりとした空間を整えられています。眼下には奈良市内が一望でき夜景や夏の花火大会を楽しむ事ができます。利用者は、毎日の散歩や窓から見える風景、旬の野菜を採り入れた食卓等で季節を感じられています。利用者は自由にエレベーターを使って移動されており、それぞれの居心地の良い場所で、穏やかに生活されています。家族、地域、職員が一体となって利用者を支える事を大切にされ、理念に基づくケアを日々実践されています。法人との連携も密であり、夜間は夜勤者と宿直の二人体制で、利用者の安全に十分に配慮されています。またここ2年間職員の離職もなく、ケアの継続性を高められているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回話し合った検討すべき事柄では、ケアに活かせるように他事業所との交流を図る取り組みや、職員のストレス軽減として、定期的に懇親会を開催する等、改善に向けて積極的に取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、まず原案を作り、それを基に会議で話し合い、職員全員の意見を反映させながら作成されました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、自治会区長、ホーム職員を基本的なメンバーとして2ヶ月に1度開催されています。まず議題を定めて、それにそって専門家に出席を働きかけて、具体的な話をして頂き、参加者にとってはホームからの報告を聞いたり意見交換の場だけでなく、知識を得る場にもなっています。様々な出席者からの意見をケアに反映され、大変有意義な会議となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎年5月に家族会を開催し、意見や要望を頂いています。得られた意見にはすぐに対応し、ケアに活かしています。話し合う場を設けると共に、昼食会を開き、調理から食事、後片付けまでを家族も一緒に行い、ホームでの様子を知って頂く機会になっています。玄関に目安箱を設置し、アンケート用紙も置いてあり、意見を聞く姿勢が伺えます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に参加しています。回覧板を回して頂き、秋祭りや清掃活動等、地域の行事に積極的に参加しています。近所の方からは野菜のおすそ分けをいただいたり、挨拶を交わして顔見知りになる等良好な関係が築かれています。ホームには老人会の方々や幼稚園児の訪問があり、利用者の笑顔を引き出しています。また、定期的にボランティアの訪問もあり、一緒に作品を作ったりしています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が定めている目的を基に、基本方針で理念を具体化している。ホーム独自として、一人ひとりに応じたケアを提供することを大切に考え、家族、地域、職員が一体となって利用者を支えるという意味を含んだ理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が名札の裏に理念を書いたカードを入れて携帯している。振り返る機会を定期的に持ちながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。理念は玄関に墨字で書かれ額に入れて掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加している。回覧板を回していただき、秋祭りや清掃活動等、地域の行事に積極的に参加している。近所の方からは野菜のおすそ分けをいただいたり、挨拶を交わして顔見知りになる等良好な関係が築かれている。ホームには老人会の方々や幼稚園児の訪問があり、利用者の笑顔を引き出している。また、定期的にボランティアの訪問もあり、一緒に作品を作ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、まず原案を作り、それを基に会議で話し合い、職員全員の意見を反映させながら作成している。前回話し合った検討すべき事柄では、職員のストレス軽減等、改善に向けて積極的に取り組まれている。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、自治会区長、ホーム職員を基本的なメンバーとして2ヶ月に1度開催している。まず議題を定めて、それにそって専門家に出席を働きかけて、具体的な話をして頂き、参加者にとってはホームからの報告を聞いたり意見交換の場だけでなく、知識を得る場にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは密な交流があり、担当者がホームを訪問することもあり、相談もしやすく、アドバイスや情報も多くもらっている。地域包括支援センターとは連携を図りながら、認知症のケアについての最適な方法や取り組みを考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪は週に一度はあり、直接暮らしぶりを伝えている。毎月、個人ごとに手書きの手紙を作成して送っている。金銭については預かり金対応で、収支報告をしている。受診報告書やカンファレンスの際の議事録も同封している。また、3ヶ月に1度季刊誌を発行し、法人代表の挨拶や行事報告、取り組みを写真入りで載せたものを配布している。	○	預かり金には、領収書を付けて収支報告することが望まれる。ホームにはコピーを保管されてはいいかでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年5月に家族会を開催し、意見や要望を頂いている。得られた意見にはすぐに対応し、ケアに活かしている。話し合う場を設けると共に、昼食会を開き、調理から食事、後片付けまでを家族も一緒に行い、ホームでの様子を知って頂いている。玄関には目安箱を設置しアンケート用紙も置いてあります。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人採用時にはまず先輩職員について、利用者を理解しながら三週間は日勤業務に就き、慣れてきてから夜勤業務を開始している。夜間は、夜勤と宿直の二人体制をとっている。職員間での懇親会や管理者との面談、看護師からの健康面のアドバイス等、職員がストレスを感じないように働きやすい環境を作っている結果、2年間離職者はいない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じての研修等、外部の研修には順次参加できる体制を作っている。研修受講後は、資料の回覧や会議等で伝達研修を行い、職員間で共有を図っている。ホーム内でも学びたいと思う事柄のアンケートをとり、それにそって勉強会を行っており、訪問看護師等に講師を依頼している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会に参加している。懇意にしている他事業所とはお互いに見学に行き来して、その場で得られた知識をケアに活かしている。今後は更に職員同士の交流を図りたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、ホームに見学に来て頂き、生活状況を聞き、ホームの状況を知って頂いている。空き室がある場合は一泊二日から体験入居もでき、雰囲気に慣れてから入居という過程を踏んでいる。入居時は、家族と密に連絡を取り、常に寄り添いながら落ち着いた生活できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事等を一緒に行ないながら教えて頂く場面を作っている。多くの経験からの楽しい話や苦労話を聞き、思いを共感している。利用者同士の助け合いの場面も多く見られる。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から引き出すように心がけ、何気ない会話の中や表情から気持ちを汲み取っている。センター方式にて職員一人ひとりの情報も収集し、共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開催し、その方にとっての問題点等、職員間で話し合った内容を基に、本人や家族の意見、要望を反映した介護計画を作成している。アセスメント様式としてセンター方式を一部から使用し始めたところである。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、モニタリングを行い再アセスメントをして介護計画を見直している。カンファレンスには家族の参加もあり意見をもらっている。議事録は各家庭に送付して介護計画作成に至るまでの一連の流れを報告している。	○	しっかりとした計画を立て、職員間での共有も図られているが、計画と日々のケアにずれがないように、また、モニタリングにも繋がるように、計画と日誌が連動するような記録方法を検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や代行で薬をもらいに行っている。美容院への送迎やおこづかいを使つての買い物等、希望があれば柔軟に個別での外出の支援をしている。月に二回は温泉へ出かけて入浴を楽しまれている方もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞き、以前のかかりつけ医に継続して診てもらっている方やホームの提携医の方とそれぞれの主治医を決めている。月に2回提携医の往診があり、24時間連絡可能で、緊急時の対応もある。週に1回は看護師の訪問、歯科医は状況に応じて往診してくれ、口腔ケアの指導ももらっている。ホームには看護師も配置されていて医療面では安心の体制が整っている。受診後は報告書を作成して家族に送付している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取り指針を示して同意をもらっている。家族と医師、看護師、ホームで話し合い、連携を図りながらその人らしい最後を迎えて頂きたいと考えている。実際に看取りの経験をされることで、職員に自信と充実感が生まれ、今後のケアに活かす事ができると期待している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳については常に心がけている事であり、プライバシーに配慮することを徹底している。個人情報等の記録物は、事務所の鍵つきの書庫に適切に保管している。パソコンには、漏洩することのないようパスワードを設定している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	一人ひとりの希望に合った生活を支援している。起床時間や就寝時間は自由で、利用者のペースに合わせた支援をしている。昼食後には、居室へ戻つてプライベートの時間を持つ方や、リビングで過ごされる方等、自由な暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者からの配達で、下ごしらえや味付け、下膳、後片付け等、できることを利用者と一緒にしている。職員も利用者と一緒に食卓を囲み、同じ物を食べている。家庭菜園で収穫した新鮮な野菜や近所からのおすそ分け等も食材に加え、出汁は、必ずかつおと昆布を使って、身体に優しい食事を提供している。おやつ作りもしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、10:00～15:00の間で入浴している。希望があれば毎日や夜間の入浴もできる。拒否のある方には、声かけを工夫し気持ちよく入浴していただいている。就寝前には安眠支援のために足浴を行なっている。温泉へ出かけて入浴する支援も行なっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活を継続できるように、家事やカラオケ、作品作り等、一人ひとりの得意なことや好きなこと、できることをして頂いている。新聞を購読している方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境に恵まれた地域で、雨天でないかぎり散歩は毎日、買い物や喫茶店に行ったり、外食に出かけたりしている。車でのドライブも頻繁にしている。ウッドデッキで日光浴したり、日常的に外気に触れる機会は多くある。季節ごとの花見や梨狩り、または観劇に行ったりもしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	観光地に近い事と、家族の希望もあり、安全面からの配慮で玄関は施錠している。外出傾向の方には、外へ行きたいと言われた時は職員付き添いの元で出かけてもらっている。ホーム内一階二階は、エレベーターを使用して自由に行き来されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署との協力で避難訓練を行っている。近隣には災害時の協力を働きかけている。防災計画もあり、救急救命講習も受講している。	○	運営推進会議等で話しをしたり、ホームの状況を理解していただく為にも、避難訓練に地域の方の参加を呼びかけられてはいかがでしょうか。また、様々な場面を想定しての自主的な避難訓練の機会を持つことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者が栄養バランスを考慮した福祉献立を利用している食事は毎回チェックし、バイタルチェック、体重測定値と共に記録に残して、家族や医師、看護師に報告している。状態に合わせて、量を調節したり、キザミ食や粥で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節にあった飾りや絵画が掛けてあり、食卓や和室のソファ等、お気に入りの場所で過ごすことができる。和室の両脇には段差を作り、腰を下ろして一息つける場所になっている。リビングの窓からウッドデッキに出ることができると共に、奈良市内が一望でき、夜景や夏の花火大会を楽しむ事ができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室と洋室があり、家庭で使っていたテレビや家具、冷蔵庫、お気に入りの装飾品、大切な仏壇、趣味の物を持ち込んでいただき、居心地の良い居室作りをしている。転倒予防の為に、掃除や片付けなどにも気を配っている。		